

慶尚北道サマーキャンプを経て学んだこと

広島市立舟入高等学校 二年 麻生彩希

私は八月十七日から七日間慶尚北道のサマーキャンプに参加しました。参加した理由は、韓国の音楽や料理に興味を持っていて学校でも国際コミュニケーションコースに所属し韓国語について学んでいるため韓国文化についても学びたいと思ったからです。このサマーキャンプでは安東市や亀尾市など多くの都市を訪れ、歴史ある古い文化や生活、最先端の新しい技術まで学ぶことができました。

特に印象に残った場所は、五日目に行った安東市にある安東河回村や安東民族博物館、そして六日目に訪れたサムソンミュージアムです。安東河回村は世界遺産であり、藁で作られた古い韓国家屋が立ち並ぶ街です。日本の古い家屋と比較してみると、日本にはないような藁の家屋が多く朝鮮時代の生活が残っていました。また、安東民族博物館では子供が生まれたときに成長を願ってわかめスープを飲む習慣、髪を結ぶ位置でわかる身分の高さ、六十歳の最後の誕生日など儀式一つ一つの意味を日本の伝統とも比較しながら引率の先生が分かりやすく説明してくださいました。そして博物館で見た安東市の伝統料理を食べるなど目だけでなく、食で文化を体験することができました。魚を一匹丸ごと料理に活用されたりして今の食文化とは異なる料理を楽しむことができました。そしてサムソンミュージアムでは、サムソンで作られた最初の電話機からガラケーなどを通して現在の機能ができていった時代背景や技術発達の過程、現在のスマホやタブレットの内部構造を見学することができました。日本で有名な企業の本社が首都ではなく、慶尚北道にあるということに驚きました。

その他にも韓服の体験や安東チムタクの調理、カバンの絵付け体験、そして風車見学など様々な体験を通して韓国、慶尚北道の魅力について知ることができました。また中国やタイ、インドネシアなど日本以外の国の人と交流をしながら体験することができ、より多くの視点から韓国を感じることができました。町で会う韓国の方も優しく話しかけてくださり、韓国の方の温かさも感じるすることができました。

この経験から、慶尚北道には、古くから残る歴史ある建造物や文化がたくさん残されている中で、最先端技術も発達し共存している地域だということを学ぶことができました。昔の経験や文化を生かしながら今につなげていきたいと感じました。そして貴重な経験をさせていただいたことに感謝してこの経験を忘れず、今後の学びや行動、広島県と慶尚北道の交流の貢献にいかしていきたいです。